

ICT を用いた檻・罠の遠隔監視・操作装置（クラウドまるみえホカクン）の地域への集中配備による捕獲と被害軽減の実証

クラウドまるみえホカクンを広域に 18 基設置した実証地域で、シカ 200 頭、サル 5 群で 430 頭の捕獲を達成しました。シカは防護柵と併用する集落で大幅に被害を軽減できます。サルは群れ単位の個体数管理が実現でき、被害対策と併用することで被害発生集落を削減できます。

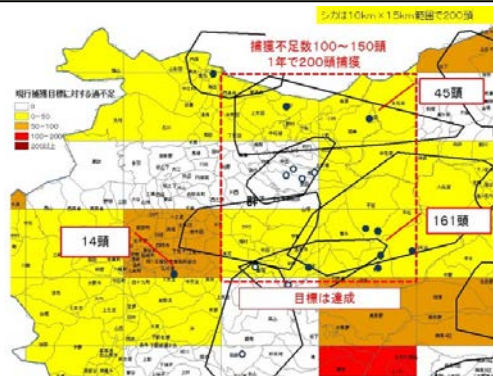


図 1 伊賀市全域でのシカ捕獲実績

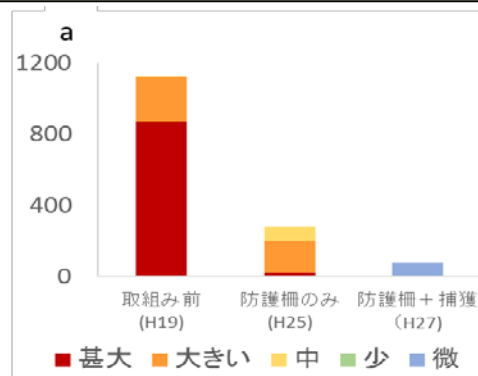


図 2 防護柵と合わせた捕獲実践集落によるシカ被害面積変化 (全戸アンケート)

◎サルは 5 群で 440 頭を捕獲し、行き場のない群れは全頭捕獲し、追い払いなどの被害対策と併用することで、集落への依存度を低下し得る群れは、40 頭程度の個体数に削減しました(図3)。サルの群れ管理が進む集落では、被害を大幅に低減できます(図4)。

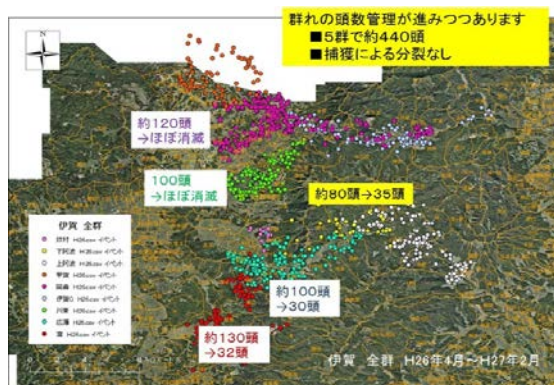


図 3 伊賀市全域でのサルの個体群管理結果

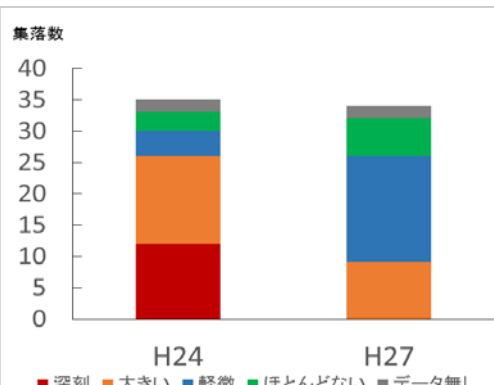


図 4 実証地域 35 集落の被害変化

◎クラウドまるみえホカクンを開発し、大型檻と共に伊賀市の大山田地区、伊賀地区、などに 18 基を配備した結果、シカは 10km×15km の捕獲が不足するエリアで、研究期間を通じ捕獲不足数を超える 200 頭程度の捕獲を実施しました(図1)。防護柵設置が進んだ集落の侵入個体を集中的に捕獲する集落では、大幅な被害軽減ができます(図2)。

注意点：被害対策と併せた個体数管理を進めることが被害軽減効果を高めます。そのためには、市町、県、住民組織など地域の関係者が共有可能な計画策定の上での機器導入が重要です

お問い合わせ先	地域連携研究課 山端 直人 電話 0598-42-6356 中央農業改良普及センター 宇野 敦善 電話 0598-42-6323
参考になる資料	三重農研HP: http://www.pref.mie.lg.jp/nougi/hp/74882027005.htm